

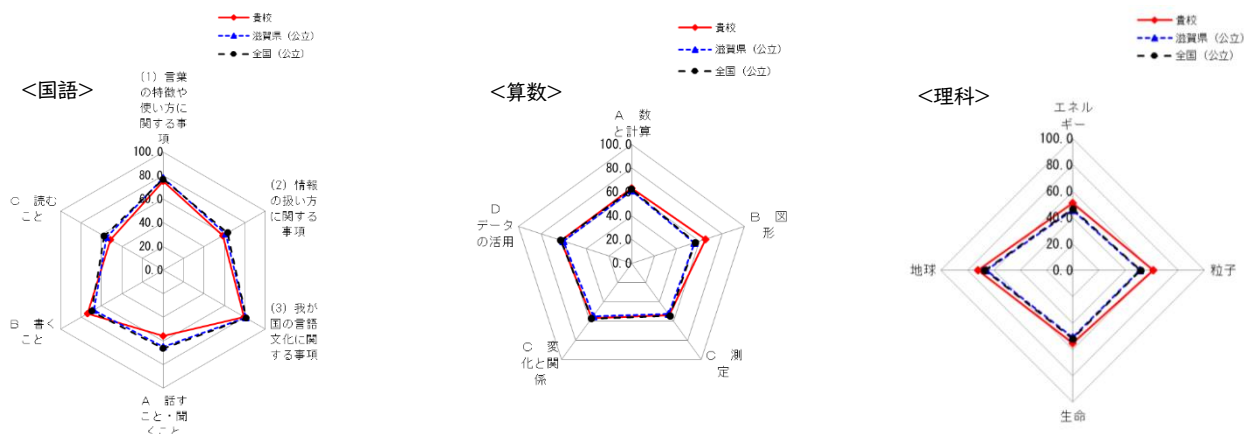
我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立比叡平小学校

〇調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について（概要）】



<教科（領域）ごとの調査結果から>

国語は6つの学習領域のうち1領域、算数は5つの学習領域のうち2領域、理科は4つの学習領域のうち全領域で全国平均を上回った。

全国平均正答率より上回った領域

国語：「書くこと」
算数：「数の計算」「図形」
理科：「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」

全国平均正答率より下回った領域

国語：「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「我が国の言語文化」「話すこと・聞くこと」「読むこと」
算数：「測定」「変化と関係」「データの活用」

<児童生徒質問紙調査から>

【9割以上が肯定的に回答し、全国平均と比較して良い傾向が見られる主な項目】

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

【全国平均と比較して良い傾向が見られる主な項目】

「人が困っているときは、進んで助けていますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

【全国平均と比較して課題が見られる主な項目】

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

【指導の充実に向けて】

- 〇ここ数年全国平均を上回っている児童の「自己有用感」や「道徳心」を維持するため、現在行っている取組や支援を継続する。
- ・校内研究『“つながり学び合う”国語科授業の追究』（「協働的な学び」）の推進による、個の学力向上と自他を尊重する心の育成。
- ・特別支援理解教育および包括的性教育を柱とした多様性理解学習推進による、一人ひとりが大切にされる学校風土・学級集団づくり。
- ・児童主体のいじめ防止の取組と生徒指導事案への組織的対応の充実による、いじめを許さない心の育成および安全・安心感の醸成。
- 〇家庭学習については、高学年については自主学習の充実を図り、基礎学力の定着と自主的に学ぶ力を育てていく。
- 〇国語の『書くこと』の強みを維持するため、文章読解における「一人読み」（自分の解釈や考えの書き込み）や、各教科学習後の「ふり返し」（自分の学びの書き込み）など、自分の考えをまとめ、記述することの指導を昨年同様に継続していく。
- 〇国語の『話すこと・聞くこと』の弱みの改善のため、ペア・グループ活動前に話す要点を整理する時間を設けたり、どのようなポイントで聞くかを示したりすることで、話す力・聞く力の双方を高められるよう支援していく。